

会議録（１）

会議の名称	第3回飯能市地域公共交通対策協議会
開催日時	平成29年9月28日（金） 開会 13時27分 閉会 14時59分
開催場所	飯能市役所 本庁舎 5階 501会議室
会長氏名	飯能市副市長 上 良二
出席委員	上 良二、吉田 樹、木部 康久、山内 智矢、堀米 康史、 松原 緑、豊田 義継、本橋 実、浅見 豊樹、渡辺 正幸、 石井 英子、浅見 浩士、藤田 幸也、天野 佳洋、中山 昌典、 柏木 正之、中川 淳、大野 康、大野 悟、畦地 英樹、 梶山 吉之、新井 洋一郎、島田 茂、青柳 義久 (長田委員代理：小林 豊)、(原委員代理：岩井 雄志)、 (今井委員代理：藤田克彦)
欠席委員	鶴岡 洋、山本 道夫
説明者の職氏名	飯能市市民生活部長 坂本 実 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室室長 佐野 敬子 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室主査 石井 利和 (日本工営株式会社)
傍聴者の数	1名
会議次第	別紙の通り
配布資料	別紙の通り
事務局職員職氏名	飯能市市民生活部長 坂本 実 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室室長 佐野 敬子 飯能市市民生活部生活安全課交通政策室主査 石井 利和 (日本工営株式会社)

会議録（２）

議事録の概要（経過）・決定事項

（１）本協議会の第３回目の開催にあたり、事務局長から開会が宣せられたのち、以下のとおり報告等をした。

- ①欠席委員、代理出席等の報告：事務局長から報告をした。
- ②会長挨拶：会長（上副市長）から開会に際し、挨拶をした。
- ③自己紹介：計画策定業務委託事業者の日本工営株式会社各自による自己紹介をした。

（２）アンケート調査等の実施について

事務局から、以下の資料に基づき説明した。

①アンケート調査等の実施について（資料１）

内容は基本的に了承されたが、委員等から以下のとおりご質問・ご意見等があった。

・資料１-５のバス利用者アンケート調査について、調査日時が平日２日間程度とあるが、天候は考慮しないのか。名栗路線には、中学校が２校あり、自転車通学者は雨天の場合、バスを利用するなど、天候による乗客数の変動も有り得る。また、大雪が降った際にバスの利用者が増えた例もある。

→天候は考えずに調査を予定している。

・事前の調査員を準備して実施することもあり、天候を考慮して日程を変更することは難しい。資料１-３に示されている住民アンケート調査票において、鉄道の利用（Ｑ９）や路線バスの利用（Ｑ１０）等で、利用する理由として、「⑥雨や雪などの悪天候のとき」という選択肢があるので、そちらの設問で補足できるとも考えられる。また、資料１-５のバス利用者アンケート調査の利用頻度を聞く設問（Ｑ７）に天候に関する選択肢を追加することでも補足可能と考えられる。

→ご意見を踏まえ、アンケート内容を再検討したい。

・資料１-３に示されている住民アンケート調査票で、バスと鉄道については、利用しない理由を聞いているが、タクシーに対しては利用しない理由は聞かないのか。

→ご意見を踏まえ、アンケート内容を再検討したい。

・タクシーの利用に関する意見は把握することが望ましい。ただし、タクシーを利用しない理由を聞くと「高いから」で終わってしまうことも考えられるため、「どのような場面で利用するか」を聞くとよいのではないかと。また、その他アンケート調査票の誤字等については、事務局で最終的に確認いただきたい。

→事務局で再確認し、アンケートを実施したい。

・資料１-４に施策レビューの様式があるが、飯能市地域公共交通基本計画で示した事業でうまく着手できなかったもの、事業が立ち止まってしまったものを、振り返ることも重要

であるため、様式に追加することが望ましい。他の自治体では、交通政策以外の分野の施策の環境変化により、取り組まなくてもよくなった例もある。

→ご意見を踏まえ、再検討したい。

(3) スクールバスの活用について

事務局から、以下の資料に基づき説明した。

①スクールバスの混乗及び活用について（資料2）

内容は基本的に了承されたが、委員等から以下のとおりご質問・ご意見等があった。

・スクールバスの混乗については住民の方々から要望を強く受けている。実施するにあたってはルール作りが必要である。

・吾野地区は、学校の統合も含め、学校のあり方について検討を進めている。現在ある3校の小学校の統合についても、地域と市で積極的な意見交換を進めているところである。スクールバスの混乗に関して、ご意見があればいただきたい。

・スクールバスの活用にはいろいろな方法が考えられる。混乗で実施する手法や、既存の路線バスに児童を無料で乗せる等の手法などがある。行事への対応や早帰りの場合への対応等の課題が考えられる。当面は吾野小学校の子供たちが乗っている時間帯で運行し、行事や早帰りの場合等の課題の対応を整理した上で、他のエリアでの可能性を検討していく段取りになるのではないかと。

・事務局から事前に報告があったが、地域との意見交換が重要である。

(4) その他

事務局から、その他の事項について、以下の資料に基づき説明した。

①平成29年度路線バスの利用促進に向けた取り組み（資料3-1）

②飯能駅北口バス路線案内図（資料3-2）

③はんのう市ノーマイカーデー（試行）実施要領（案）（資料3-3）

内容は基本的に了承されたが、委員等から以下のとおりご質問・ご意見等があった。また、公共交通利用に関する意見交換を行い、各委員から以下のとおりご意見等があった。

・ノーマイカーデーについて、チラシと説明資料の日付が異なっている。

→チラシが誤っているため、修正（12/17(日)まで）する。

・市長が週に1回、路線バスで登庁している。「公共交通の灯りを消してはいけない」との思いのもと、市長が先頭に立って進めている。市長とも今後調整し、取組を大々的に進めていきたい。委員の皆様のご協力をいただきたい。

・埼玉県では、県内の網形成計画の策定状況を確認しているところである。入間市においては、交通空白地域の解消に向けて、コミュニティバスの再編を目玉に策定を進めていたが、国から、コミュニティバスだけでは、コミュニティバス再編計画であるので、路線バスの路線変更も含めて、策定を検討することと指摘を受けた。飯能市においても、スクー

ルバスの混乗も含め、路線バスの再編まで含んだ検討を進めてほしい。また、県内において、策定における国等との調整が難航し、策定スケジュールが遅れた例もあるので、十分に調整して策定いただきたい。

・本日、「はんのうふくしの森プラン」の紹介カードを配らせていただいた。現在、第3次のはんのうふくしの森プランも策定しているところであり、福祉の中で公共交通を考えていくべきであり、地域を巻き込んで取組んでいくことが重要と、国から助言をいただいた。今後においては、高齢者の運転免許証返納後のフォローとして公共交通の維持を考えていく必要がある。双柳地区で路線を変更し循環にして、乗客が増えた事例もあることから、様々なアイデアを盛り込んでいただきたい。そのためにも、アンケート調査等を活用して地域の実情を明らかにしていただきたいと考えている。また、駿河台大学において開催される地域づくりのシンポジウムで、公共施設の統廃合に関するパネルディスカッションに出席する予定があり、その場で空白地域を作らないような公共交通網の形成が重要であることや飯能市の取組について紹介したいと考えている。

→福祉の観点も重要である。ご指導のほどよろしくお願ひしたい。

・彩京のびのびバスを持っているような人たちでサークルを作り、市内の観光地を路線バスで巡る取組を行っている。名栗地区のみならず、南高麗も紹介しており、間野黒指などの飯能市に住んでいる方でも知らないような観光地を巡る観光ツアーを企画している。また、郷土史研究会の会長とも連携して取り組んでいる。今後も継続して実施していきたい。

→ぜひ、引き続きお仲間を増やしていただきたい。

・イベント実施に関する結果について報告する。名栗地区でのウォーキングイベントでは、参加者80名中25名が路線バスを利用して参加いただいた。また、親子で川遊び体験では、参加者180名中177名がバスを利用して参加いただき、バスの運賃収入を試算すると、約15万円にもなる。また、なぐりブラさんぽでは、参加者180名中十数名ほどバス利用いただいた。今後については、伝説の森ウノタワの秘境イベントも企画しているところである。

→名栗の皆さんはイベントを通じて地域活性化に努力いただいている。イベントを通じて路線バスの利用が増えることを期待している。

・国際興業バスの飯能営業所が立派になったのには驚いた。案内板に木の板を使っていた。このような取組は住民としてうれしい限りである。

・名栗行バスは、国と県の補助対象の地域幹線間路線となっている。今年度、国の補助スキームが変わる予定であり、生産性の向上の取り組み（スクールバスの混乗や貨客混載等）が示されないと、次年度から例年どおりの補助金が交付されない仕組みが導入される。定期券を買っていただくと、収入増となるので、そういった取組も併せて検討いただきたい。

・総括を申し上げる。3点ほどお話しする。

・1点目は、アンケートの実施やこれまでの取組をレビューし、飯能市として、今後何をやっていくことが望ましいかを検討していくことになる。バス停の新設やスクールバス混乗化等、一步一步前に進んでいるところもある。これらの活動を定着させていくこと、足

りないところを整理していく必要がある。

・2点目は、ノーマイカーデーの参加者へのインセンティブがないのがさみしいと感じた。飯能市で運営している SNS 等で参加企業を紹介するなど、できる範囲のインセンティブについてご検討いただきたい。

・3点目は、福祉と公共交通の融合について検討することである。国土交通省の「地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会」においても話題に上がっているところである。その点については、東洋大学白山キャンパスにおいて、「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」が10月28、29日に開催され、その中で超高齢化社会の移動手段について事例紹介等をさせていただく予定である。

会議録（3）

発言者	発言内容
事務局長	〈開会〉
事務局長	（欠席委員及び代理出席者の報告）
事務局長	<p>続きまして、今回から、今年度策定する予定となっております、地域公共交通網形成計画の策定業務受託事業者であります、日本工営株式会社の担当者の皆さんにご同席いただいております。後ほど、自己紹介をしていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、この協議会の内容等につきましては、公開とさせていただいております。また、本日、傍聴の方が1名いらっしゃいますので、ご承知おきくださいますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次第に沿いまして協議会を進めさせていただきます。はじめに、協議会の会長であります、上副市長からご挨拶を申し上げます。</p>
会長	（挨拶）
事務局長	会長、ありがとうございました。続きまして、日本工営株式会社の皆さんから、自己紹介をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。
日本工営株式会社	（自己紹介）
事務局長	ありがとうございました。それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、本協議会の会長であります、上副市長にお願いいたします。会長、よろしくお願いいたします。
会長	<p>それでは、議事を進めさせていただきます。</p> <p>（1）アンケート調査等の実施について、を議題といたします。</p> <p>事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	（資料1「アンケート調査等の実施について」に基づき説明）
会長	説明は以上でございます。ただ今の件につきまして、ご質問はございますか。

委員	資料 1-5 のバス利用者アンケート調査について、調査日時が 10 月から 11 月のうち、平日 2 日間程度予定とあるが、天候は考慮しないのですか。例えば、名栗路線には中学校が 2 校あり、自転車通学者は雨天の場合、バスを利用する可能性があるかと思われます。こうしたことから、天候による乗客数の変動も有り得るかと思えます。また、何年か前に大雪が降った際にバスの利用者が増えた例もあります。資料 1-5 に関しては、項目に入れる予定はありませんか。その辺も含めて、調査をしていただけたらと思います。
会長	事務局のほうから答弁をお願いいたします。
事務局	これからアンケート調査を始めるわけですが、現在、天候は考えずに 2 日間調査を予定しております。ご意見を踏まえ、変更するかどうか考えていきたいと思えます。
会長	答弁は以上ですが、委員よろしいですか。
委員	結構です。
会長	今後、ご意見等を踏まえ、再検討するということでよろしいですね。
事務局	はい。
委員	事前にかんがりの調査員を準備して日にちを決めて実施することもあり、天候を考慮して日程を変更することは難しいと思えます。ここで掘り下げるのは限界があると思えます。資料 1-3 に示されている住民アンケート調査票において、鉄道の利用 (Q9) や路線バスの利用 (Q10) 等で、利用する理由として、「⑥ 雨や雪などの悪天候のとき」という選択肢があるので、そちらの設問でそれなりに補足でき、十分かとも考えられると思えます。また、資料 1-5 のバス利用者アンケート調査の利用頻度を聞く設問 (Q7) に天候に関する選択肢を追加することでも補足可能と考えられます。上手く雨が降ってくれたらとれるかもしれませんが、この辺りが現実的なのかなという気がします。
会長	先生のご意見を踏まえ、事務局いかがですか。
事務局	ご意見を踏まえ、アンケートの内容を考えて実施していきたいと思えます。

会長	他に、委員の皆様から、ご質問はございますか。
委員	資料 1-3 に示されている住民アンケート調査票で、バスと鉄道については、利用しない理由を聞いているが、タクシーに対しては不満とか利用しない理由は聞かないのでしょうか。
事務局	ご意見を踏まえ、コンサルタントとも相談し、反映できるような形で調整したいと考えております。
会長	他に、委員の皆様から、ご質問はございますか。
委員	少なくともタクシーの利用に関する意見は把握することが望ましく、聞いておいてもよいと思います。ただし、タクシーを利用しない理由を聞くと「高いから」で終わってしまうことも考えられるため、「どのような場面で利用するか」を聞くとよいのではないのでしょうか。バスと鉄道に相当するような設問は入れておく価値はあると思います。また、その他アンケート調査票の誤字等については、事務局で最終的に確認いただきたいと思います。
事務局	事務局で再確認し、アンケートを実施したいと思います。
会長	今の件で補足することはございますか。
事務局	再検討いたします。
会長	それでは、他にございますか。
委員	資料 1-4 に施策レビューの様式がありますが、飯能市地域公共交通基本計画で示した事業で、今まで計画が存在していて新しく改訂しようとしていく時に、うまく着手できなかったもの、事業が立ち止まってしまったものを、振り返ることも重要であるため、この様式に追加することが望ましいと思います。まだ 4 年余りありますが、他の自治体では、他の交通政策以外の分野の施策の環境変化により、取り組まなくてもよくなったというような例もあります。ですから、この中で整理するより能率的になるのかなという気がしました。
会長	今の関係で事務局のほうから何かありますか。

事務局	ご意見を踏まえ、もう1度見直しまして、アンケート調査をする前に整理し、確認し直したいと思います。
会長	よろしく願いいたします。他の委員さんはよろしいでしょうか。もしよろしければ(2)のほうに移らさせていただきたいと思いますが、ご了解いただけますでしょうか。
委員	(了承)
会長	はい。それでは次に、議事の(2)スクールバスの活用について、を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(資料2「スクールバスの混乗及び活用について」に基づき説明)
会長	事務局以外でこれに係わっているのは学校教育部とかありますけれども、何か補足がありましたらお願いしたいのですが、よろしいですか。
委員	今までここに書かれている、スクールバスの混乗については住民の方々からご要望を強く受けているところであります。課題もいくつかあり、この資料に載っているところであります。実施するにあたっては、ルール作りが十分必要であります。こちらの形で進めていければと思っております。
会長	委員の皆様もいろいろ報道等でご案内かと思っておりますけれども、吾野地区につきましては、地域住民の皆様と市で各地区の学校のあり方等についていろいろ検討させていただいております。教育効果など様々なことを考えますと、3校の小学校の統合に向けて方向を出すべきではないかというような地区の皆様のご意見をいただきました。現在、これらのことについて市と地域でいろいろなキャッチボールをさせていただいております。このようなことから吾野地区と東吾野地区におきましては密接な関係でいろんな事業を行っておりますので、かなり正確な情報が得られるのではないかと我々は思っているところであります。委員の皆様から、この辺の現状につきまして、または他地区の現状、スクールバス以外の話でも、また路線バスを使ったスクールバスの混乗利用に関しましても情報がありましたらご意見を頂戴したいと思います。
委員	スクールバスの活用にはいろいろな方法が考えられるが、これまで使っているスクールバスに混乗で実施する手法や、既存の路線バスに児童だけを無料で

	<p>乗せる等の手法など、いろいろやり方があります。4頁に、市としては路線バスとして運行されているようなものがあるわけではありますが、ただ1本ずつの運行であります。設備が路線バスと同じではなかったり、あるいは行事への対応や早帰りの場合への対応等の課題が考えられるが、路線化すると上手く対応できなかったり、いくつかの課題があります。当面は吾野小学校の子どもたちが乗っている時間帯で運行し、子どもたちと一緒に、無料で行っていただき、この中でどのような課題があるのか、また行事や早帰りの場合等の課題の対応を整理した上で、また実際に使っていただける方がいらっしゃるのか、他のエリアでの可能性を検討していく段取りになるのではないかと思います。</p>
会長	<p>私のほうに先だって事務局のほうから先生のご意見を踏まえて、事前に報告がありましたが、いろんな方法があっても地域との意見交換が重要であると思います。ぜひ、それを踏まえていただければと思いますので、よろしくお願ひします。他の委員さん、よろしいでしょうか。(2)につきましては、よろしいでしょうか。それでは、(2)はこれで終了させていただきまして、(3)その他につきまして、事務局から用意されている事項はございますか。</p>
事務局	<p>(資料3-1「平成29年度路線バスの利用促進に向けた取り組み」、資料3-2「飯能駅北口バス路線案内図」に基づき説明)</p>
事務局	<p>(引き続き、資料3-3「はんのう市ノーマイカーデー(試行)実施要領(案)」に基づき説明)</p>
会長	<p>ただ今の件につきまして、ご質問はございますか。</p>
委員	<p>ノーマイカーデーについて、このチラシは期間が8日から18日となっていて、説明資料の日付と異なっているが、どちらが正しいのでしょうか。</p>
事務局	<p>チラシが誤っているため、修正(12/17(日)まで)させていただきます。</p>
会長	<p>ただ今のとおり訂正をお願いいたします。他に何かございますか。委員の皆さんよろしいでしょうか。よろしいということであれば私のほうから、このノーマイカーデーにつきましては、前々からご案内させていただいていたかと思ひますけれども、市長が週に1回、国際興業(株)の路線バスで登庁しています。市長のポリシーとしてやはり公共交通を使うのだと言っております。「公共交通の灯りを消してはいけない」との思ひのもと、市長が先頭に立って進めてい</p>

	<p>ます。環境対策も踏まえ、重要な取組だと思っています。事務局と、市長とも今後調整し、取組を大々的に進めていきたいと思っています。委員の皆様のご協力をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、この件につきましては、終了とさせていただきたいと思いますが、議題の（1）から（3）全て通しまして、公共交通に関しまして、委員の皆様から、何でも結構ですので、ご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>埼玉県では、県内の網形成計画の策定状況を確認しているところですが、隣りの入間市においては、昨年度策定されておりますが、交通空白地域の解消に向けて、コミュニティバスの再編を目玉に策定を進めていきましたが、国から、コミュニティバスだけでは、コミュニティバス再編計画であるので、路線バスの路線変更も含めて、策定を検討することと指摘を受けたとのことで伺っています。最初は路線バスのルート変更はなくてコミバスの再編だけで国のほうに相談したところ、コミバスの再編だけですよねと言われ、もう少し中身を確認して持参してくださいということであったとのことです。今後のアンケートでニーズを掴んで飯能市においても、スクールバスの混乗も含め、路線バスの再編まで含んだ検討を進めてほしいと思います。届け出が年度内にいくように打合せ等をやっていただきたいと思います。なお、県内において昨年度も4市町が網形成計画の策定ということで進めていたところ、1市が策定における国等との調整が難航し、今年の7月まで調整がつかず、ずれこんで、策定スケジュールが遅れた例もあるので、十分に調整して策定いただきたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ただ今のご意見に対しまして事務局のほうから何かありますか。埼玉県さんのほうも、ただ今の件に関しましては、事務局も十分に調整させていただくということでご了解いただければよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>
会長	<p>それでは、よろしくお願いいたします。他にございますでしょうか。地域の取り組み等から何かございますでしょうか。福祉を行っている観点から、何かございますでしょうか。</p>
委員	<p>本日、皆さんのお手元に名刺の大きさの、「はんのうふくしの森プラン」の紹介カードを配らせていただきました。ふくしの森プランを広めていかななくてはならないということで、誰もどういうものなのかわからないということで作りました。裏側に3つ書いてありまして、見守りという言葉を使わないで温か</p>

	<p>く見守る大切さを何とか伝えられないかなということで作りました。現在、第3次のはんのうふくしの森プランを策定しているところであり、福祉の中で公共交通を考えていくべきであり、地域を巻き込んで取組んでいくことが重要と、国から助言をいただいたそうです。今後においては、高齢者の運転免許証返納後のフォローとして公共交通の維持を考えていく必要があります。双柳地区で路線を変更し循環にして、乗客が増えた事例もあることから、例えば、スクールバスではカバーできないところなど、様々なアイデアを盛り込んでいただきたいと思います。そのためにも、アンケート調査等を活用して地域の実情を明らかにしていただきたいと考えます。また、駿河台大学において開催される地域づくりのシンポジウムで、公共施設の統廃合に関するパネルディスカッションに出席する予定があり、その場で空白地域を作らないような公共交通網の形成が重要であることや飯能市の取組について紹介したいと考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。今回の計画策定にあたっては、福祉の観点も非常に重要であると思っています。庁内でも意見交換等しておりますので、ご指導のほどよろしく願いいたします。先日、事務局のほうから、路線バスを使ったアイデアで事業を行っていることを伺いました。そのような観点で反響等も含めてご報告をいただければ有り難いのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>彩京のびのびパスを持っているような人たちでサークルを作り、路線を使って外に旅行に行くのではなくて、市内の観光地を路線バスで巡る取組を行っています。飯能市に住んでいながら他の地域を全く知らないというのがあって、名栗地区のみならず、南高麗も紹介しており、間野黒指などの飯能市に住んでいる方でも知らないような観光地を巡る観光ツアーを企画しています。また、南高麗で知人がいるので話をしてもらおうとか郷土史研究会の会長とも連携して取り組んでいます。とりあえず、飯能市内の人がもっと、まちのほうの人が乗って突然山のほうに行ってもらいたいなと思っています。民謡の仲間を中心に徐々に広げていきますので、今後も継続して実施していきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。ぜひ、引き続きまして、お仲間を増やしていただきましてよろしく願いします。他にございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>前回は PR をさせていただきました。その後の結果をご報告させていただきましたと思います。前回、名郷味市のリーフレットを配布させていただきました。同日にジョイントでウォークを開催し、参加者 80 名中 25 名が路線バスを利用</p>

	<p>して参加いただきました。また、夏に開催した、名栗でわくわく親子で川遊び体験では、参加者 180 名中 177 名がバスを利用して参加いただき、バスの運賃収入を試算すると、約 15 万円にもなりました。今、回覧でまわらせていただいている、なぐりブラさんぽでは、名栗庁舎の周辺を回っていただくもので、スタンプラリーなども行い、参加者 180 名中十数名ほどがバス利用いただきました。片道 620 円ぐらいかかるところです。今後については、このリーフレット、伝説の森ウノタワの秘境イベントも企画しているところでもありますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。名栗の皆さんは、本当にイベントを通じて地域の活性化にご努力いただいております。市としてもイベント型観光だけではなく、メツアがオープンしますので、いつ行っても楽しめる地域づくりということで、名栗を委員さん中心にいっぱいイベントをやっていただいておりますが、それらを踏まえていつ行っても楽しめる地域を作るということを既に始めておりますが、来年から本腰を入れてやらせていただくということを改めてお約束させていただきます。イベントを通じて国際興業株式会社の路線バスの利用者が増えることを期待していますので、よろしくお願いいたします。他の委員さん、何かございますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>国際興業バスの飯能営業所が 2 か月前ぐらいに新しくなり、立派になったのには驚きました。また、案内板には、すごく立派な一枚板で国際興業株式会社飯能営業所と書いてありました。これは何の木なんですか。</p>
<p>委員</p>	<p>新しい門出にということで作っていただいたものです。名栗のほうの木を使っております。私も感激いたしました。</p>
<p>会長</p>	<p>他の委員さん、よろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>もう一点だけ皆様をお願いしたいのですが、今お話にも出ておりましたが、飯能駅から名郷のほうまで行っている国際興業バス路線なのですが、国と県の地域幹線間補助の対象路線となっております。これまでは国のほうに申請すればある一定の部分の補助が入って来ていたのですがけれども、今年度、国の補助スキームが変わる予定でありまして、対前年度と比較して生産性の向上の取り組み（スクールバスの混乗や貨客混載等）が示されないと、次年度から例年どおりの補助金が交付されない仕組みが導入されるようです。平成 30 年度の補助金から適用されますので、ワーキングチームを開いてどうやったことができ</p>

	<p>るのか今やっているところですが、一番手っ取り早いのが皆さんにバスの定期券を買っていただくと、収入増となりますので、そういった取組も併せて検討いただきたいと思います。路線バスにたくさん乗っていただいて来年度も100%補助金がつくようにしたいので、皆様のご協力をお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。他の委員さん、よろしいですか。そうしましたら、吉田先生のほうから、総括をお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>3点ほどお話しできればと思っています。1点目は、アンケートの実施やこれまでのことを整理したら、今後何をやっていくのか出てくると思います。飯能市として、国際興業株式会社の飯能営業所の撤退問題があって基本計画をつくってという中で、その間こういう様々な取組というのが皆様と一緒にできているところもありますし、一方で、小さいところですが、スーパーマーケットの前のバス停の新設やスクールバス混乗化等、一步一步前に進んでいるところもあります。これらの活動を定着させていき、しっかりと継続させていただいて、地域の皆さんと交通事業者の皆さんと飯能市の皆さん、他の皆さんも含めて、タックを組んでどういうふうにやっていけるのか、そういうところを掴めるということが網形成計画の目標ということになりますので、今までやってきたところで足りないことは何なのか一緒に整理をしていくということが次回以降出てくるかというふうに思います。2点目は、若干気になっているのが、ノーマイカーデーの参加者へのインセンティブがないのがさみしいと感じました。事業者さんが元気になりそうな何かがないわけです。予算との関係もありますが、飯能市で運営しているフェイスブックやSNS等で参加企業の取組を紹介するなど、事業者のアピールにも繋がるので、できる範囲のインセンティブについてぜひ、ご検討をいただければと思います。3点目は、他の委員さんからも福祉の話が出てきましたけれども、私が委員となっている、国土交通省の「地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会」においても福祉政策と交通政策をどうやって融合させるのかというものが、特に高齢化社会が進んでいる中で問題であるなどの議論が常にあります。その点については、東洋大学白山キャンパスにおいて、「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」が10月28、29日に開催され、私も毎年出席していて事務局の一人であり、今回は2日目だけ登場いたしますが、実は初日から、福祉と交通の接点、あるいは超高齢化社会の移動手段をどうしようかというようなものを、かなり全国からいろんな事例紹介もあり、有識者などいろんな方も来られて行われます。ネット等でも検索できますので、ぜひ、足を運んでいただくと有り難いかなと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。本日もいろんなご意見を頂戴いたしました。事務局はこれを整理していただいて、次回に活かしていただいてこの計画が市民にとってかけがいのないものであることを、そしてきちんと作る必要があるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。今日の議事につきましては以上でございます。本当に長時間ありがとうございました。それでは事務局、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>事務局長</p>	<p>上会長、議事進行ありがとうございました。委員の皆様方には、慎重なご審議をいただきましてありがとうございます。本日、頂戴いたしましたご意見等につきましては、今後に活かしていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、以上を持ちまして、第3回飯能市公共交通対策協議会を閉会させていただきます。本日は、ご協力をいただきましてありがとうございました。</p> <p>〈閉会〉</p>